

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273600203		
法人名	特定非営利活動法人 秋桜		
事業所名	グループホーム 秋桜		
所在地	千葉県印西市小林4095番地1		
自己評価作成日	平成25年1月23日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設の小規模多機能型居宅介護事業や同法人のグループホーム・デイサービスとの連携があり、法人としての理念が地域へ発信し、利用者の安心した暮らしに結びついている。 ・運営推進委員会や家族会も盛んに行い、利用者を中心とした関係作りが積極的である。 ・スタッフは一致団結し、お互いをフォローし合える信頼関係を築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>基準を満たしているとして外部評価が1年免除され、今回は2年ぶりの外部評価である。10年を超えるこの事業所の活動は、併設の事業所とともにすっかりこの地域に根付いているようである。福祉事業の基本、指針を着実に実行し、運営に活かそうとしていることが、医療連携体制づくりや、避難訓練の年4回の実施、運営推進会議の年6回の実施などを実行していることへ伺える。職員の採用要件は「ひとり一人を大切に介護出来る人」としている。入社後の指導や研修を通じて法人の理念に共鳴する人が多く、職員の定着度は高い。今年度は利用者第一、地域連携の推進、記録の整備と業務環境づくりの充実などを盛り込んだ事業計画を策定している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中の1人として、その人らしく当たり前の生活が営める」を事業所の理念として揚げ、常にその意識を持ち業務に取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくり、新人研修、一般職員研修、スタッフ会議で折に触れて取り上げ、確認し合っている。時には法人幹部が創業時の想いを話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や買い物に出掛けた際、近所と挨拶を交わしたり、農作物等が届けられている。地域の行事へも積極的に参加し、老人会、保育園との交流も盛んに行っている。	事業所の創設から10年を超え、地域の一員としてすっかり根付いている。敷地は夏祭りの集合場所としても利用されており、近所の人々も集まり交流の場となっている。保育園には毎月招待され、一緒に焼き芋を食べたりの交流も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト等の活動を通じ、認知症サポーター養成講座を開催したり、町作りの一環として、地域の人々に向け、認知症に関する情報を発信し、気軽に相談できる事業所として役立てよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表の多方面の委員により、2ヶ月に1回開催。活動報告、意見交換からサービス向上に活かしている。	会議は年間でスケジュール化され、他のイベントと合わせて開催することで家族の参加が得られやすい様工夫している。行政や地域の多方面の参加が得られているが、管理者が多忙なため、半分程度の参加にとどまっている。	事業所の代表である管理者にはぜひ全回出席し、会議を主導してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	お互いに情報を得ながら、密接な連携を取り運営を行っている。	行政や地域包括支援センターとは主に法人が窓口となって、連携を取っている。認知症サポーター養成講座の開催などの依頼もある。職員による認知症をテーマにした演劇は分かりやすいと評判である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束・抑制をしない事が当たり前と認識し、実践している。 法人内の研修において、具体的な行為も正しく理解している。	研修では必ず虐待防止を取り上げ、その中で身体拘束をしないケアについて研修している。研修は事例中心に行い、職員間で活発な意見交換がされている。法人の倫理綱領にも「拘束しない」宣言が記載されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、常に注意を払い、その防止に努めている。 当法人のマニュアル委員の活動も積極的である。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修を通じて学ぶ機会があり、必要な方には活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を通じて、十分に説明を行い、不安や疑問なく納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの発言は、殆どみられないが、声なき声を傾聴する様努めている。 御家族からの御意見・苦情は随時受けられるようになっており、その内容について会議で周知徹底し、改善を図っている。	職員はひとり一人の様子を把握し、職員間で共有し合うことが日々の業務となっている。食事介助に訪れる家族もいるなど家族の来訪は多く、職員が家族の思いを把握する機会になっている。得られた意見等は運営に反映させる大切な情報となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・管理者会議・総会等で、現場での意見を聞いたり、互いの課題を見つけ出す機会がある。	毎月のスタッフ会議は職員全員が参加している。さまざまな意見が出て、お互いを高め合い理解し合う良い機会となっている。	充実した内容の会議であるが、会議の時間が長く、職員に負担になっている部分もあると思われる。時間を短縮する工夫が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に職員の働きやすい環境をと心を配り、職場環境・雇用条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを見定め、段階に合わせた講習・研修に参加出来る機会を設けている。 法人内の研修は月1回開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やキャラバンメイトの打ち合せ等を通じ、地域の同業者との情報交換を通じてネットワークをサービスに活かしている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動をしっかりと受け止め出来ること、出来ないことをきちんと把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間を掛けてじっくりと話を聞いている。家族が不安なところと一緒に考えることで安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れるまで体験期間を設けている。必要なサービスが提供出来る様に話し合いで進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で共に協力しあえる場面を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力は不可欠であり同じ姿勢で本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いや親せきはいつでも訪問している。歓迎もしている。手紙や贈り物も良く届いており、電話での会話も仲立ちしている。	花や手紙を送ってくれる親戚がいる利用者には、お礼の電話などの支援をしている。また、遠方から訪ねてくれる人は職員も歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の仲立ちをしたり、トラブルが発生しそうな時は何気なく関わりをもち良好な関係を築いている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や生活に気を掛け、折に触れ手紙のやり取りやお話できる機会を大事にしている。退所後も家族会に在籍して下さる方も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや、センター方式を活用し、日頃の状態から御利用者のペースに合わせ生き生きと暮らせるよう支援している。	重度化が目立ち、言葉でのコミュニケーションが難しい利用者が多い。喃語のような意味をなさない言葉も場面ごとに記録し、意向を汲み取るようにしている。利用者の多くは同法人のデイから移ってくるため、人柄なども把握しやすくなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を基に日々の生活の中での観察からのアセスメントでより深く本人を把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子観察は勿論、常に小さな気付きを見落とさない様に努め、職員全員が現状を把握し、その人らしい暮らしが出来る様に役割や活躍が出来る様に働き掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・介護職・看護職・ケアマネ・主治医の其々の角度からの意見を取り入れて介護計画を作成し、月1回のカンファレンスにて情報交換し現状に合わせた計画に常に修正。家族の希望もお聞きし、計画書は丁寧に説明させて頂いている。	毎月1回利用者9名のカンファレンスを、時間をかけて丁寧に行っている。他に1日3回の申し送りや連絡ノート等で密に情報交換している。介護計画ほか利用者の情報を記したカードデックスがあり、職員はいつでも確認できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者ごとの個人記録に日常生活の様子・健康状態等を記録し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の質を維持・継続・向上させていく上で、のニーズには併設した小規模多機能やケアホームとの連携で、柔軟な対応で支援している。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の舞踏ボランティアの来訪、消防署立ち会いの防災訓練等、社会資源と協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2～3週間毎の各主治医の往診 睡眠・排便状態・体重等異常がないか医師に相談し急変時・特変時及びターミナル期にも適切な医療を受けられる関係にある。	訪問診療専門クリニックの医師と提携しており、定期的および随時に対応している。また非常勤の看護師が数日おきに健康チェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理について看護師と協働、必要に応じて医療活用の支援をしている。受診又は様子観察等、看護師に正確な情報を伝え意見を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院との連絡を密にし、職員が交代で可能な限り病院を訪れ利用者の様子を観に伺い、病院関係者との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望等十分に把握し、関係者で方針について十分に協議し、書面にて同意した対応にて最期まで支援している。又、この方針に基づき生活の場であるホームと治療・延命の為の病院との違いを家族に説明し、主治医と共に最善の支援が出来る様、今後の変化準備も含めて看取りに取り組む。	自然な最期を希望する利用者家族が多い状況である。薬や医療による延命は極力行わず、利用者は眠るように穏やかな最期を迎えている。ターミナルケアプランを作成するときは必ず家族に同席してもらい、意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、対応方法について備えている。普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会い指導の基、訓練を実施。マニュアルに基づき指揮命令系統を身につけ、地域住民への働き掛けも日常の延長で協働体制にある。	年間2回、消防署立ち会いの防災訓練を行うほか、年に数回、独自に避難訓練を行っている。火災、地震、水害ほか非常災害時対応のマニュアルを作成している。平屋建てであり、小規模、障害者ケアホームと併設のため連携しやすい。	

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を傷つけないような声掛けや対応は絶対にしないという共通認識はスタッフ間で確立している。	認知症ケアについての研修は積極的に行い、常に職員同士で話し合い、尊厳に配慮して接している。トイレ誘導もさりげなくするなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせた声掛けで、自室で休みたいなど個々の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ボランティアの受け入れ、介護相談員の訪問、保育園児との交流が計画に沿って行われている。天候や入居者の希望に基づき過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ際に本人の希望を伺ったり、鏡の前での整髪が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやおかずの盛り付け等、スタッフと一緒にいき、食事の際の談話で盛り上げている。	食事は数日おきに職員、利用者らで買い物に行き、食べたいものを話し合っ作っている。利用者の重度化が進み、調理や配膳、下膳は難しい。時おり出前を取って気分を変えたりしている。嚥下の状態に応じて、ミキサーをかけたり、おかゆに変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせてご飯やおかずの量を決めている。食事量、水分量のチェックもつ付けており、ミキサー食や刻み食等の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフが仕上げ磨きを必要に応じて行い、うがいが困難な方にはガーゼで汚れを除去している。義歯を使用している方は、夜間に入れ歯洗浄剤に浸けて清潔を保っている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用したり、入居者の表情を読み、さり気なくトイレに誘ったりしてトイレでの排泄に向けサポートしている。	立位が取れる限り、トイレで排泄するよう支援している。夜間もオムツにはせず、トイレ誘導したり、ポータブル便器を使用するよう促している。便秘の利用者にはできるだけ牛乳を飲んでもらい、どうしても改善しない場合に薬を使うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して、1人1人の排便チェックを行っている。状態に応じて牛乳を飲んで頂いたり、便秘薬の利用等個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態に応じていつでも入浴出来る様に支援する。	浴室は一般家庭と同じタイプであり、週2回、入浴支援をしている。拒否が強い場合は足浴に変更したりする。また、歌を歌って楽しい気持ちになってもらい、浴室へ案内するなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の気持ちを尊重し、自室でゆっくり休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが管理し、確実に服用しているかチェックしている。2～3週間に1回の訪問診療の際に症状の変化を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、取り込み、たたみや食事の盛り付け等の役割、歌や紙芝居など個々の希望に合わせた楽しみごとや気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や、近隣の散歩、併設事業所への交流・訪問等、外出の機会は出来るだけ多く作っている。入居者と家族と一緒に外出出来るような工夫も行っている。	花見や祭りなど年間計画に位置づけられた行事は全員で外出している。日常的には、天候や体調を見ながら個別に買い物や散歩に出ており、車いすで出かける利用者もいる。	

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際に、ご自分で好きな物を選んで頂き、レジで支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り家族に葉書を書いて頂いたり、電話でのやりとりをして頂き、御家族との関係を保持して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3事業所が回廊式になった中庭部分は全面ウッドデッキになっており、好天気にはデッキで開放的に食事やお茶を楽しむことが出来る。リビングは採光も通風も心地よく、日常はリビングでTVを観たり、音楽を聴いて楽しまれている。	温度、湿度、臭気などに気を配っており、室内は居心地のよい空間となっている。床はじゅうたん張り、汚れた箇所だけは洗えるため、衛生的である。3事業所が併設された平屋建ての施設であるが入り口は別であり、独立している。	併設の3事業所の玄関がそれぞれあるが、表札が出ていないため、どこから入ればよいのかわかりづらい。案内の工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人がけのソファや椅子、二人がけソファ等を配置し、自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風のクローゼットとエアコンが備え付けになっている他は、使い慣れた家具や調度品・額等を持ち込み、自分の好きな生活空間を作っている。	居室には馴染みの品を自由に持ち込んでおり、自分らしい居室で生活している。毎朝、職員がリビングと居室を掃除している。居室担当者が衣類の入れ替えや補充などに気を配っている。日中はリビングに集まっており、居室で過ごす人は少ない様子であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の居室には目印のネームプレートを掛けたり、トイレや浴室にも目印のプレートを貼っている。床も滑りにくいようにカーペット敷きにしたり、手摺りも設置している。		

【評価結果】